

より質の高いホスピタリティへ



ロイトンお茶ボランティア

IMC16開催中には、100名を超えるコンベンション・ボランティアが派遣となり、札幌のホスピタリティの“顔”として活躍し、主催者及び参加者から高い評価を受けました。札幌コンベンションビューローでは、空港到着時のミーティングサービスをはじめ、会期中のインフォメーションデスクの設置、同伴者プログラムの企画・実施、Congress Banquetへのアトラクション紹介及び日本文化体験コーナー設置、託児サービスの言語サポートなどを行いましたが、いずれの場面にもボランティアの大きな協力と一人ひとりのあたたかい笑顔が見られ、札幌会議成功に一役買いました。

プラザ・ボランティアは、外国語ボランティアと日本文化ボランティアが時に連携しながら、国際会議参加者の滞在を楽しく、安心して過ごせるように活動しています。2006年度からは、会議サ



野外彫刻美術館散策

ポート、情報提供、エクスカッション、日本文化など、コンベンションに不可欠なテーマを掲げて、グループ別勉強会を開くなど、より質の高いホスピタリティを提供できるよう自主活動を始めました。このような日頃の活動が伝わったのか、IMC16では、会議成功はもとより、参加者とボランティアとのあたたかい触れ合いが高く評価され、Congress Banquetのステージにおいて、ボランティア活動が紹介されると、場内からは大きな感謝の拍手が響きわたりました。



芸術の森絞り染め

第16回国際ミーティングエキスポ (IME2006)に出展

『新しい』北海道のイメージをアピール

日本で唯一のコンベンション見本市「第16回国際ミーティングエキスポ (IME2006)」が9月22日(金)・23日(土)の2日間にわたり東京ビッグサイトに開催されました。

札幌コンベンションビューローは例年同様、北海道・旭川・函館・釧路・北見による「北海道コンベンション誘致推進協議会」の一員として出展し、学会・会議主催者との商談、来場者に対するアンケートを実施いたしました。



東京ビッグサイト

この見本市の主催は日本コンgres・コンベンション・ビューロー(JCCB)と独立行政法人国際観光振興機構(JNTO)で、日本全国の各都市がコンベンション誘致宣伝活動のためのブースを出展し、

会議・学会・展示会を主催する学会・団体・企業関係者に対して、情報を提供したり商談を行うものです。

本年度のIMEの最大の特徴は、政府が推し進める「観光立国日本」政策の一環として行う旅行業者の大商談会「YOKOSO! JAPAN トラベル・マート2006」と同会場で開催することです。これに伴い、会場を国内最大の展示会施設である東京ビッグサイトに移し、開催時期も例年12月だったものが9月に変更されました。

北海道ブースとしては、トラベル・マート北海道コーナーとの連携を図り、海外キーパーソンとの商談も意識した多言語表記のブースを用意しました。

本年度の北海道コンベンション誘致推進協議会のテーマは「Dynamic Eye」で、これは北海道イコール「自然」「農水産物」というイメージを超えて、世界水準の施設やアクセスの良さといった、北海道がコンベンションの開催地にふさわしいという新しいイメージを積極的に売り込むものでした。

さらにブースをスカイビュー(気球埋込モニター)等の最先端の映像機材をフル装備した斬新なものにしたことにより、北海道の優れた技術と斬新なアイデアを十分にアピールできたものと思われます。「雄大な大自然」や「収穫」といった北海道の魅力については、6枚の大型液晶モニターや360度電光掲示板で存分に見せることもでき、結果、最先端と大自然の融合した「新しい北海道」を売り込むことに成功し、主催者や関係者から高い評価を受けました。

当日の会場の様子や国内外の出展団体のPR内容は、IME事務局が開設した公式ホームページによりご覧になることができます。札幌コンベンションビューロートップページからもリンクを張っておりますので、どうぞご覧ください。

IME2006公式サイト: <http://www.jccb.jp/ime2006/>



会場のどこからでも見える特大浮遊モニター「スカイビュー」や、360度電光掲示板「G-Lec」を配した北海道ブース
(企画制作:北海道イベントプロモーション協会)